

題 目 ボランティア活動の継続意図にエンパワーメントが与える影響～「雪はねツアー」の事例調査

氏 名 堀翔太郎

指導教員 大沼進

日本最北の都道府県である北海道はその全域が豪雪地帯又は特別豪雪地帯に指定されており、冬季は人力による除雪が必要となる地域が多い。そして同時に、北海道は全国に先行して少子高齢化に直面している。自治体による除雪車等を利用した除雪支援が行われる地域は多い。しかし、特に独居高齢者の多い過疎地域においては細かい住民のニーズに応える除雪の担い手が不足している。近年の豪雪では体力の衰えた高齢者が豪雪の被害に遭い、死傷する事故も目立つ。このような背景から、比較的体力のある若い除雪の担い手を継続的に確保することが急務と言える。そこで本研究では、2013年2月から3月にかけて北海道各地で行われた除雪ボランティアツアーである「雪はねボランティアツアー」を題材に、ボランティア活動の継続意図にエンパワーメントが与える影響について述べた。本研究ではエンパワーメント概念の中で「個人的効力感」「集合的効力感」「充足感」の3つを取り上げ、中でも「集合的効力感」がボランティア活動の継続意図に対して大きな影響を与えていることが明らかになった。ボランティア活動に参加する前は「個人的効力感」、即ち自分自身のスキルや知識などの向上を目標としていた参加者が、活動後には「集合的効力感」、つまりグループで何らかの問題に取り組み解決を図ることができるという感覚を得た。そのことが、次もボランティア活動に参加したいと思う「継続意図」につながっていた。本研究は、様々なボランティア活動に携わる人々に活動を続けてもらうために役立つだろう。

.....